

平成20年度決算に基づく

財政の健全性を示す指標の算定結果を公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により算定した4つの「健全化判断比率」と「資金不足比率」を公表します。

本市は、平成22年1月16日に阿東町と合併したため、合併後の数値を再度算定しました。

会計の赤字の程度を示す指標

1年間に入ってきた金額（歳入）より使った金額（歳出）が多い場合、その余計に使った額が赤字となります。その赤字の大きさを示す指標が、「実質赤字比率」と「連結実質赤字比率」です。この比率が大きいほど財政運営は厳しい状態です。

実質赤字比率

一般会計等の赤字の程度を指標化したものです。

山口市の状況は？

市の収支決算は黒字（約10億円）です。

※早期健全化基準 11.37%
※財政再生基準 20.00%

赤字額は
ありません。

連結実質赤字比率

一般会計等に水道事業や下水道事業などの全事業を含めたすべての会計を合算して市全体の赤字の状況を指標化したものです。

山口市の状況は？

市全体の収支決算は黒字（約44億円）です。

早期健全化基準 16.37%
財政再生基準 40.00%

赤字額は
ありません。

借金の水準を示す指標

「実質公債費比率」と「将来負担比率」は、地方公共団体の借金の水準を示す指標です。この比率が大きいほど資金繰りが厳しい状態です。地方公共団体は、赤字があるから借金するというわけではなく、将来へ資産を形成するために行うものです。しかし、借金にも適切な水準があるはずであり、この比率は、その水準を示すものです。

実質公債費比率

市がその年に支払う借入金の返済額を指標化したもので、3年間の平均で比率を算出します。

山口市の状況は？

比率の数値は良好です。

早期健全化基準 25.00%
財政再生基準 35.00%

13.1%

将来負担比率

市が将来負担しなければならない借入金などの状況を指標化したものです。

山口市の状況は？

比率の数値は良好です。

早期健全化基準 350.0%
財政再生基準 (-)

83.7%

市が経営する企業の健全度を示す指標

山口市が経営する企業（水道、下水道等の公営企業）の経営状況の深刻度を示す指標が「資金不足比率」です。

資金不足比率

事業収入を元に、独立採算を原則として経営する[※]公営企業について、資金不足額と収益とを比較して指標化したものです。

※経営健全化基準 20.00%

山口市の状況は？

資金不足はなく、公営企業の経営は健全な状態です。

※公営企業

…水道事業、下水道事業、農業集落排水事業、漁業集落排水事業、国民宿舎事業、簡易水道事業、小郡駅前第三土地区画整理事業をいいます。

資金不足はありません。

【指標の結果から見えること】

本市は全ての指標において基準を下回っており、財政の健全化が保たれています。
今後も分析を継続しながら、安定した財政運営に努めてまいりたいと考えております。

※ 用語の解説

早期健全化基準 （財政の悪化が警告段階であることを示す基準）

健全化判断比率の指標のうち、1つでもこの基準以上になると「財政健全化団体」になり、財政健全化計画を定めるとともに、自助努力で健全化を進めることとなります。

財政再生基準 （財政が破綻状態であることを示す基準）

健全化判断比率の指標のうち、さらに状況が悪化して、1つでもこの基準以上となった場合は、「財政再生団体」となり、市は財政再生計画を定め、国の監督を受けながら財政の再生に取り組むこととなります。

経営健全化基準 （早期に経営健全を図る必要があることを示す基準）

資金不足比率が、経営健全化基準以上となった場合には、「経営健全化計画」を策定し、自助努力で経営健全化を進めることとなります。